

本の中のサツマイモ（6）

＜林 英夫・芳賀 登篇『^{ばんづけ}番付集成（上・下）』柏書房＞

元 川越サツマイモ資料館長 ^{いのうえ}井上 ^{ひろし}浩

* 相撲^{みたて}番付見立の番付

江戸時代後期から大正期にかけてのことである。相撲番付になった木版一枚摺りのさまざまな番付が出回った。それは上方や江戸・東京などに限らず、全国の中小都市からも出ていたから、総数はわからない。『番付集成』の編者でさえ、見ることできたのは4千種ほどであったという。

その多くは制作者名がない。版元の名もない。そして発行年がわかるものも少ない。その構成は四段組みが多い。紙面の真ん中に、東方と西方を分ける縦長の広い場所がある。そこに「後見」・「差添人」・「行司」・「勧進元」などの大きな文字がある。

最上段に、だれもが納得できるはずの大物を並べる。最下段にもよく知られているものを並べるが、その多くは小物であった。それでもときにはそこに珍しいものや、新しいものが現れることがあった。サツマイモの初出もその好例の一つであった。

本稿の最後に載せさせてもらった「天保時代名物競」の中の「川越 薩摩芋」がそれである。

この番付ほど発行年代が明らかなものは珍しい。しかも後見人を幕府老中であった水野越前守忠邦とし、失敗した天保の改革を皮肉っているものはない。水野越前といえば、贅沢禁止・勤儉実行の「天保の改革」

を強行した人物だった。だが、結局は失敗し、失脚しているからである。

* 川越^{みたて}芋が見立番付に出たわけ

川越いもの主産地は武蔵野台地の中にあった旧川越藩領の村々であった。そのサツマイモも、最初は農家が飢饉に備えて作っておくものであった。だが、食べてみれば甘くておいしいし、腹の足しにもなる。それですぐ普段の日の、自家用食の一つとして本気でつくるものになった。

それがやがて江戸に現れた焼き芋屋が繁盛したおかげで、その原料いもの供給地になった。

川越には1989（平成元）年から2008（平成20）年までにかけて、サツマイモ料理専門料亭「いも膳」の主人、神山正久さんが私費を投じて建設し、運営費も負担していた「サツマイモ資料館」があった。入館料なしの同館初代館長は川越いも友の会事務局長、山田英次さんであった。わたしはその後任として1992（平成4年）から2008（平成20）年まで、2代目館長として勤めさせてもらうことができた。

それで『番付集成（下）』の最初のページにある「天保時代名物競」をコピーし、展示室の目立つところに張り出しておいした。すると、さまざまな反響があった。特

に鹿児島県方面からきてくれた人たちからの質問で多かったのはこういうことであった。

「日本でサツマイモの本場といえば鹿児島のはずなのに、なんで川越なの？」
それに対しては、こう説明させてもらったものである。

「おっしゃるとり、わが国のサツマイモ生産量で最大なところとなれば、鹿児島です。でもそちら産のものの多くは自家用だったようですね。商品作物としてはなかったから、名物番付作者の目に止まらなかったのではないのでしょうか」と。

天保時代名物競									
伊勢 稻木紙煙草入	陸上周下上會備北筑松 奥野防野野津前越前前				見後 水野越前	紀薩美備山阿尾薩陸土 伊州濃後城波張摩奥佐			
	松館岩宇桐生備縮博厚 都生掛前多板 前煙宮織蠟陶帶昆 鯉草紙荏物燭物布地布					熊國美疊京藍瀬上仙勝 府西戸布臺男 野濃陣物帷平武 煙織染子袴 鯨草紙表物玉附地地土			
	奥近尾信下播奥甲筑信甲備 州江州州雄勝州奥前濃後					紀美越天下山安若尾豐飛博 伊濃前和雄城野州州前彈多			
	津源海更銚姫南水博真黒尾 五科部田之 輕郎鼠子路品多 鋤蓄鐵帶保命 塗館腸麥籾草瓶石絞地柿酒					根岐雲三結八鹿馬鳴小拉煉 輪城島海倉山 來阜橋腦利 素木藥絞帶ノ			
伊豆 雅	上江越武江駿近肥駿山箱奥近京下 州戸前州戸江後河城根州江縣濃				尾張 宮重 大進 京江 紅戸 鹿子	三伊尾北江下近豐阿相木河松江山 河勢前越戸野江後波機管内前戸城			
	吉龜生大個木鳥八興竹湯南赤鯉利 井森地井代田元牛根 の櫻の蠟本居形部味蒲川 火月び白漆赤橘細増ノ 打し					吉桑五高淺日伊九鳴江於道ヲ鯉加 田名田草島明ツ茂 ば島春吹年門具六ト蒲川 くノ水海慶細寺セノ ち蛤錫飴苔塗艾酒鯛工櫛櫛イ焼鮎			
	川谷武中武下東上筑下京駿安越甲大 越中越遠越野都野後越都河房後豊和					武遠駿東山相越駿伊遠神江遠伊武越 薩州河遠城機波河豆州川戸江勢越河			
	薩せ大焼三日鹽赤柳中八字米ぜ葡萄釣 米河光城川山ッ津良ん荷 摩う澤坂唐まのこ橋谷の月瓶 の島がのむ和にんせのまの 焼菜ら饅しらやべ團 芋が桃米漬し頭酒紙くい子物い零鮎					鶴日安燒壬小虎山熱相龜脚白イ隅小 坂部餅田の藏須甲前賀田吉 見山川坂生原屋川海良せ笹白じ川 のわのこの絲寒饅白硅べんば 梨らん焼梅 子餅栗餅葉干頭酒皮布いとし餅漬			

林英夫・芳賀登編：『番付集成』下巻（柏書房、昭和48年）所収。

最下段の左端に「川越 薩摩芋」とある。